

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490700091	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	株式会社二チイ学館		
事業所名	二チイケアセンター洋光台		
所在地	(〒235-0045) 神奈川県横浜市磯子区洋光台3-16-32		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年8月21日	評価結果 市町村受理日	令和2年11月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

駅から3分という好立地にもかかわらず、閑静な住宅街にあるホームです。駅周辺には商業施設が多くあり、ご利用者様と買物やお散歩に出かけ四季を肌で感じる場面作りをしています。
「拘束をしないホーム・明るい笑顔のあるホーム」を事業所理念とし、毎日朝礼で唱和を行っています。
常に行為・言動が拘束につながっていないかを確認し、ご利用者様が毎日笑顔でお過ごしいただける様なケアを行っています。
また、地域に根付いたホームづくりを目指し、町内会の夏祭りに参加したり中学校との交流を行っています。
介護相談員を導入してサービスの質の向上を目指しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年10月14日	評価機関 評価決定日	令和2年10月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 当事業所は、JR根岸線洋光台駅から徒歩3分の駅前で、商業施設や銀行、さらに駅に隣接してURの団地群が立ち並ぶ、利便性の高い立地にある。戸建て住宅が並ぶ閑静な住宅街で、利用者は安心して買い物や散歩を楽しむことができる。共用型認知症通所介護を併設しているが、現在新型コロナウイルス感染対策で休業中である。</p> <p>【利用者を尊重した支援の実践】 事業所理念として「拘束をしないホーム・明るい笑顔のあるホーム」を掲げている。利用者の自由な行動を出来るだけ制限しないように、玄関のドアは開放し、見守りを重視している。利用者の主体性を尊重して、概ね月1回のイベント時に配食を中止して、好きな料理を利用者、職員が共同で作っている。調理や配膳、下膳、食器洗いなども主体的に行っている。利用者の要望に応じて、馴染みの理容室に行ったり、毎日入浴される方もいる。入居前に家庭菜園をしていた方が、前庭の菜園で野菜を作り、料理の好きな方は職員と調理をしたり、人をもてなすのが得意な方は、来客の接待をしたり、個々の特性を生かし、役割を分担し、利用者は自由に、生き生きと生活を楽しんでいる。夜間にお茶を飲みたいという利用者のために、温かいコーヒーとお菓子を添えて提供し、その対応が喜ばれ、管理者が職員と話し合い、イベントとして純喫茶「まりこ」を開店した。天気の良い日はテラスでガーデンパーティーを開催し、ドリップコーヒーを飲みながら、利用者間や職員との話し合いの機会を設けて、利用者の生活に彩を添えている。</p> <p>【地域との連携強化】 町内会に加入し、夏祭りや駅前のイベント、地域の防災訓練などにも参加したり、中学校の体験学習を受け入れ、近隣の保育園とも交流の機会を持っているが、新型コロナウイルス感染対策でこれらの活動は中止になっている。町内会とは「相互協力の協定書」を交わし、事業所は地域に対して協力していく姿勢を持っている。庭の樹木の剪定や草取りのボランティアの来訪はある。今後は傾聴や踊りなどのボランティア、更にクリスマスには管理者が海外のアーティストのコスプレでギターを弾くイベントを予定している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	二チイケアセンター洋光台
ユニット名	ひまわり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にしている	地域に暮らす一員として、明るく笑顔で毎日の生活が送れるよう朝の朝礼で理念を唱和し共有し意識を高め実践を心がけている。	「拘束をしないホーム・明るい笑顔のあるホーム」を事業所理念としている。開設時に管理者と職員で作成したもので、毎朝の朝礼時に、唱和している。事務所に掲示し、いつでも全員で確認できるようにしている。管理者は利用者が明るい笑顔になるためには、職員が明るく、楽しく働かなければならないと考えており、職員とのコミュニケーションを大切にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、町内とのつながりを持っている。町内会のスタンドパイプ式放水器を預かったり、中学校の体験学習の受け入れを行うなど交流の機会を持っている。	洋光台3丁目町内会に加入している。散歩時に挨拶を交わし、庭の花を觀賞したり、お中元にジュースを頂くこともある。夏祭りには利用者と職員で参加し、職員が屋台の綿菓子づくりの担当をした。地域の防災訓練に利用者も参加し、保育園との交流や中学校の体験学習など受け入れているが、これらの活動は、新型コロナウイルス感染対策で現在は中止している。町内会とは「相互協力の協定書」を交わし、事業所は地域に対して協力していく姿勢を持っている。庭の樹木の剪定や草取り、裁縫のボランティアが来訪し、今後は傾聴や踊りなどのボランティアを予定している。今年のクリスマスはギターの弾き語りなどのボランティアの予定がなく、管理者が海外のアーティストのコスプレでギターを引くイベントを計画している。	

3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>町内会の夏祭りや防災訓練に参加して、いつでも相談ができる旨を伝えている。地域ケアプラザにも認知症サポーター養成講座に協力できる体制を伝えている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご利用者のご家族、地域ケアプラザ所長様、町内会長様を交えての運営推進会議を行い、情報共有を行ってサービス向上に活かしている。</p>	<p>今年は2月のみの実施で、参加者は町内会長、地域包括支援センター所長、介護相談員、家族で、利用者は随時自由に参加している。会議の内容は、事業所の運営状況の報告や事故報告、情報交換などである。家族から転倒防止の要望があり、職員での見守りを重視するようにし、不安定な行動をされる方にはその場での声掛けを増やしたり、レクリエーションを行うことで不安を取り除くように努めている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>必要があれば連絡をとり、協力的体制関係が築けるよう心がけている。介護相談員の受け入れを行っている。区が主催の研修会などに参加している。</p>	<p>窓口は磯子区高齢障害支援課で、担当者とは運営の相談をしているが、密接な連携をとれるまでの関係にはなっていない。今後、運営推進会議議事録や外部評価の報告書などを持参する予定になっている。横浜市主催の「質の向上セミナー」に参加している。磯子区のグループホーム連絡会に参加しており、他の事業所と情報交換をし、フェースガードの配布も受けている。</p>	<p>磯子区の高齢障害支援課の職員とはできるだけ機会を作り、顔の見える関係づくりをすることを望みます。日常的に気軽に連絡が取れる関係づくりを期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束をしないホーム」という事業所理念の理解を深めるため、年間研修計画に取り入れ日々取り組んでいる。	身体拘束をしない旨を運営規程などに明記している。年2回の研修を実施し、さらに毎月の「身体拘束廃止委員会」で確認している。会議内容は「身体拘束廃止委員会実施報告書」に記述して、議事録として残している。玄関のドアは開放し、フロアのカギは、利用者の状況に応じてやむをえず施錠することもある。車いすの方はリビングなどでは出来る限り移乗して椅子に座るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修をおこない、ネグレクトや言葉による虐待についても理解を深め、スタッフ一人ひとりが意識を持って防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員のスタッフが学ぶ機会はあまりないが、管理者、リーダーは必要に応じて支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に重要事項説明書を開示し、入居前に不安や疑問点をお聞きしできるだけご要望に応え納得を得ている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様、ご家族様の要望には常に耳を傾ける姿勢を心がけ、ご家族様面会の際はスタッフ、管理者がお話を伺える時間を設けている。毎年法人で顧客満足度調査を実施して運営の参考にしている。</p>	<p>家族の来訪時や運営推進会議の参加時に意向等を把握している。現在は家族の面会はオンライン面会としている。法人の毎年の「顧客満足度調査」により、要望を把握している。訪問のない家族には電話で連絡をしている。利用者と家族とのかかわりを重視するとの法人方針で、新規の利用者家族には介護計画に、月1回の来訪や、病院の付き添いなど家族の役割を明記している。家族より、利用者の状況の報告が少ないとの意見で、2ヶ月毎に「ほほえみ通信」を発行し、継続して利用者の状況を伝えている。</p>	
----	---	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス、定期会議において常にスタッフの意見や提案を聞き反映させられるようにしている。 定期的にスタッフと面談を行い何でも言える関係を築けるよう働きかけている。	職員の意見は毎日の朝礼時や申し送り時、毎月の全体会議やカンファレンスなどで聞いている。職員は日常の業務の中で管理者に要望を伝え、管理者は職員とのコミュニケーションを大切にしている。人事異動についての要望やタイムスケジュールの変更、薬を塗る時間帯など日常のケアへの提案が多くあがっている。管理者が夜間勤務しているときに、お茶を飲みに来た利用者へ、温かいコーヒーとお菓子を添えて提供したことが利用者に喜ばれ、職員と話し合い、イベントとして純喫茶「まりこ」を開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態、時間数、夜勤の負担などのヒアリングを行い離職防止、把握に努めている。モチベーションアップにつながるキャリアアップ制度を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップ制度の他、個々に見合った社内研修やグループホーム連絡会開催の研修に参加してトレーニングができるようにしている。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>現場研修制度を利用して、他法人のグループホームへの交換研修に参加して、交流・勉強を行う機会を作っている。グループホーム連絡会のブロック会に参加して他事業所とのつながりを持つようにしている。</p>		
----	--	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後にご本人のお話を聞く時間を多く持ち、カンファレンスや申し送りにより情報共有をおこない、ケアプランの見直しを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時からご要望をお聞きする時間を多くとり、ご本人の様子をご家族に電話連絡し、できる限り不安を取り除くよう配慮しながら信頼関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面談より、ご本人と話をし「こうしたい」「こうなりたい」などの希望や要望をお聞きし、共有しながら支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、お手伝いいただけることをできるだけ一緒に行い、感謝の言葉をかけ、アットホームな共同生活の場を築き、関係性を保つよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事を通してご家族と絆を深め、思い出作りの場面を設け、共にご本人を支えていく関係性を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の訪問時には、気兼ねなくお話していただけるようなスペースを確保し、ゆっくりしていただけるような雰囲気作りをしている。 電話などのやりとりも支援している。	近隣の知人や友人の来訪があるが、現在は新型コロナ感染対策で中止としている。手紙のあて名書きや電話の取次ぎの支援をしている。携帯電話を所持して家族と連絡を取っている方もいる。家族や友人と馴染みの理容室や食事に行く方や、家族と墓参りに行く方もいる。以前からの習慣として、新聞を購読したり、好きなDVDを見たり、自身で洗濯している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、相性を把握し、フロアでの座席も考慮している。出来る限り良好な関係性を築けるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後、別の施設へ移られたご家族と連絡を取り支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中で傾聴する時間をできるだけとるよう心がけ、ご本人の思い、希望、「こんなふうに過ごしたい」などの意向を汲み取れるよう努めている。	アセスメントから入居前の生活歴や好みを把握している。日常のケアの中でコミュニケーションをとるよう努めている。家族から要望を聞くこともある。意思を伝えることが難しい方には、表情やしぐさなどから把握するように努めている。トイレなど1対1の場面を大切に要望を把握している。把握した内容は申し送りノートで共有し、介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの話し、アセスメントなどから生活歴などを把握し支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や排泄・水分チェック表などの帳票を活用し、一日の過ごし方、心身状態の把握に努めている。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスにおいて、ご本人、ご家族の意向、医療機関などの意見も反映させ現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>アセスメントにより、家族から現在の困りごと、心配事を把握している。カンファレンスを開催し、入所後2～3日で仮の介護計画を作成し、1ヶ月様子を見て、モニタリング後、介護計画を再作成している。短期は6ヶ月、長期は1年で見直し、変化のある時はその都度見直している。居室担当者が利用者の状況を把握して、カンファレンスで報告している。医師や看護師の意見は、往診時の「受診・健康管理記録」「訪問報告書」などから把握している。介護計画から、長期・短期の目標やサービス内容を要約した日常生活支援シートを作成し、日々のケアの状況を「介護記録」に記入して、介護計画と日常のケアの連動を図っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>管理日誌、申し送りノートなどの帳票を利用し、連絡を密にとり、情報共有に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の重度化により発生する個々のニーズ、その他状況の変化により生まれるニーズに出来る限り柔軟に対応し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加、活動支援により一人ひとりが持っている力を出来る限り発揮し、楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療が月2回ある。かかりつけ医と連携をとりながら重症化を防ぎ、良好な関係作りにも努めている。協力医の総合病院の地域連携担当とも連携し、受診時間の短縮に便宜を図ってもらっている。	従来からのかかりつけ医を利用している方は2名で、家族対応で受診している。協力医のクリニックは内科と精神科で24時間連絡が取れる体制になっている。月2回の往診があり、更にかかりつけ薬局の薬剤師の来訪が月2回あり服薬管理を担っている。毎週の訪問看護師による健康管理や、随時の訪問歯科による治療、職員への口腔ケアの指導が行われており、安心な医療体制となっている。受診内容は「受診・健康管理記録」や「訪問報告書」などに記入して情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問があり、受診記録などにより連携を密に取り適切な受診を受けられるように支援している。		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時には病院関係者と連絡を密にとり、ご本人、ご家族が不安なくできるだけ早期に退院できるよう支援している。</p>		
----	--	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の指針についてご説明し、ご本人やご家族の意向に沿って出来る限りの対応をおこなっている。また研修を通してスタッフにも終末期の対応などの知識を深めていけるよう働きかけている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を契約時に説明し、同意を頂いている。協力医は24時間オンコール体制でいつでも対応できる体制になっている。看取りに関する研修は、職員全体会議などで、法人の研修資料を活用して、管理者が講師となって実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、研修を行い、連絡網や対応についても確認をおこなっている。AEDの使用法などの研修に職員が参加した。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署員、地域の方をまじえての防災避難訓練（夜間も含む）を実施し、災害時の対応に備えている。町内会保有のスタンドパイプ式放水器をホームで預かり、近隣住民の方々が災害時に即時利用ができるように協力している。	4月に避難訓練を実施し、12月に夜間を想定した訓練を、消防署立ち合いで実施予定である。町内会の訓練には職員と利用者が参加しているが今年中止になっている。事業所訓練は運営推進会議と同日に実施し、町内会長や利用者家族などが参加している。町内会とは災害時の「相互協力の協定」を結び、協力関係を構築している。備蓄はごはんや飲料水、缶詰などの食料品、オムツなどの日用品、簡易トイレや防寒シートなどである。毎月19日は法人の「防災（消防）訓練簡易版、チェックリスト」を使用して、特に避難誘導について念入りにチェックしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保についての研修を行っている。個人情報保護のテストも毎年実施している。 言葉かけは、信頼関係が成り立った上での気軽な言葉かけをするスタッフもいるが、個々により違いはある。	職員に個人情報保護についてのテキストを配布し、半年ごとに理解度テストを実施し、理解度を確認している。職員はトイレ誘導などは小声で話しかけたり、周囲にわからないように対応している。排泄や排尿の記録は記号で行っている。個人情報を含む書類は事務所のカギのかかるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が、遠慮なく希望や思いを伝えられる関係、雰囲気作りを行い、いくつかの中から選んだり、決定したりする場面も作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	カンファレンスの時間を使い、「その人らしさ」について話し合い、個々のペースにあった支援をするよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人希望の理美容に行き、使い慣れた化粧品を使い、意向に合った身だしなみやおしゃれができるよう支援している。訪問理容により、カットがホーム内でうけられるよう支援している。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>準備の段階は難しくなってきたが、下膳や食器洗い・拭きをお手伝いしていただいている。</p>	<p>食材と献立は配食業者から提供を受けている。調理は職員と利用者で行っている。利用者は、その他に配膳、下膳、食器洗いに食器ふきなど行っている。外食は家族対応で、出前は寿司などを取っている。配食業者による寿司や手打ちそばのケイタリングを計画している。誕生日にはホールケーキにろうそくを立ててお祝いをし、クリスマスにはケーキと飲料、正月にはおせちを楽しんでいる。天気の良い日はテラスでガーデンパーティーを開催し、ドリップコーヒーを楽しんでいる。利用者の状態により、とろみやきざみなどの食形態に配慮している。</p>	
----	----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量をすべて帳票に記録し把握することにより、脱水症状などを予防している。個々の状態により食事形態を変え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の利用あり。義歯の不具合などにも対応でき、定期検診により口腔内チェックもおこなうようにしている。口腔衛生管理体制加算を8月より取得して、口腔ケアの技術向上を目指している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パットへの失禁が多い場合には、誘導時間を替えてみるなどし、立位が不安定な利用者様も日中は2人で介助するなどトイレでの排泄をできるだけ促すようおこなっている。	重度で全介助の方が2名でオムツを使用している。自立の方は9名で自分でトイレに行っている。その他の方は基本的には排泄パターンを把握して、トイレ誘導し、自立を促している。退院後オムツだった方が、事業所でのケアでリハビリパンツに変更になった方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、適度な運動、腹部のマッサージなどにより、できる限り自然排便を促している。便秘が続いたときは、医師の指示を仰ぎ、薬により調整を行っている。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴時間は毎日設けているが、拒否があった場合は、ご本人の意向を伺い、時間や曜日を変えている。毎日入浴の希望がある利用者様にも対応できる体制を整えている。 入浴ができない場合は清拭、足浴で対応している。</p>	<p>入浴は週2回を基本としているが、本人の希望で毎日入浴する方が4名いる。時間は午前・午後どちらでも可能で、シャワー浴や清拭など、利用者の状態で柔軟に対応している。希望者には同性介助で対応している。入浴を好まない方には、職員を替えたり、時間をとって対応している。浴室、脱衣所にはエアコン、ヒーターを設置している。利用者はゆず湯やしょうぶ湯などを楽しみ、好みの石鹸やシャンプーなどを持ち込んでいる。</p>	
----	----	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や心身の状態に応じて、いつでも休息や睡眠がとれる環境づくりを行い、必要な方は褥瘡予防のため、午前、午後と居室で横になっていただく時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書は見やすいようにファイリングしており、副作用についてもいつでも閲覧し確認できるようになっている。疑問に思うことは薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野、嗜好などをアセスメントやご本人、ご家族からお聞きし、一人、一人に合った楽しみごと、役割を持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩で外出する機会をできるだけ多く持ち、希望に添った支援を行っている。理容室や衣類購入などにスタッフが付き添って外出している。	新型コロナ感染対策で外出や買い物ができないが、事業所の周りを散歩したり、テラスで外気浴を楽しんでいる。家族対応で馴染みの理容室に行く方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり好きなように使うことはできるが、日常的に所持はしていない。希望に応じて小額の所持も支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があればいつでも電話をかけることができ、つながることができる体制を作り支援している。携帯電話を所持してご家族へ連絡をしている入居者様もいらっしゃる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所がわかりやすい様 ドアの床とドアの色分けをしている。共有フロアー、居室はバリアフリーで、玄関は季節ごとに飾りを替え季節感を味わえるような配慮を行っている。	リビングにはテラスがついており、開放的で明るい造りになっている。厨房から利用者の様子が確認できるようになっている。常に換気には気を付けており、空気清浄機や加湿器も備えられている。清掃は夜間の職員が実施している。シートモップで職員と一緒に清掃する利用者もいる。ワックス掛けは年2回業者が実施している。壁には季節感のある貼り絵や塗り絵などが飾られている。フロアにはトイレが3ヶ所あり、車いす対応で、ドアが色分けされてわかりやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し自由に座り、会話を楽しめる環境作りをしている。 和室もあり、くつろげる空間作りに配慮している。		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時は使い慣れた家具を持参いただき、できるだけ居心地よく馴染みの空間を作り心地よく生活出来る様工夫している。</p>	<p>防災カーテン、空調設備、照明器具、クローゼットが備え付けである。利用者は使い慣れた机や椅子、ソファや、チェスト、ベッド、テレビ、カセットレコーダーなどを持ち込んでいる。仏壇や位牌などを持ち込む方もいる。自分の部屋は出来るだけ自分で清掃し、居室担当者が衣服の季節の入れ替えや備品の整理などをフォローしている。部屋の前には大きな文字で表札に名前が書かれており、わかりやすくなっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>持っている力を発揮できる場面を作り、安全でできるだけ自立した生活が送れるよう支援している。</p>		

事業所名	二チイケアセンター洋光台
ユニット名	みずばしょう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に暮らす一員として、明るく笑顔で毎日の生活が送れるよう毎朝の朝礼で理念を唱和し共有し意識を高め実践を心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、町内とのつながりを持っている。町内会のスタンドパイプ式放水器を預かったり、中学校の体験学習の受け入れを行うなど交流の機会を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の夏祭りや防災訓練に参加して、いつでも相談ができる旨を伝えている。地域ケアプラザにも認知症サポーター養成講座に協力できる体制を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者のご家族、地域ケアプラザ所長様、町内会長様を交えての運営推進会議を行い、情報共有を行ってサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要があれば連絡をとり、協力体制関係が築けるよう心がけている。介護相談員の受け入れを行っている。区が主催の研修会などに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束をしないホーム」という事業所理念の理解を深めるため、年間研修計画に取り入れ日々取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修をおこない、ネグレクトや言葉による虐待についても理解を深め、スタッフ一人ひとりが意識を持って防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員のスタッフが学ぶ機会はあまりないが、管理者、リーダーは必要に応じて支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に重要事項説明書を開示し、入居前に不安や疑問点をお聞きしできるだけご要望に応え納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、ご家族様の要望には常に耳を傾ける姿勢を心がけ、ご家族様面会の際はスタッフ、管理者がお話を伺う時間を設けている。毎年法人で顧客満足度調査を実施して運営の参考にしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス、定期会議において常にスタッフの意見や提案を聞き反映させられるようにしている。定期的に個別の面談を行い何でも言える関係を築けるよう工夫している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態、時間数、夜勤の負担などのヒアリングを行い離職防止、把握に努めている。モチベーションアップにつながるキャリアアップ制度を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップ制度の他、個々に見合った社内研修やグループホーム連絡会開催の研修に参加してトレーニングができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現場研修制度を利用して、他法人のグループホームへの交換研修に参加して、交流・勉強を行う機会を作っている。グループホーム連絡会のブロック会に参加して他事業所とのつながりを持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後にご本人のお話を聞く時間を多く持ち、カンファレンスや申し送りにより情報共有をおこない、計画作成担当者と連携をとりケアプランの見直しを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時からご要望をお聞きする時間を多くとり、ご本人の様子をご家族に電話連絡し、できる限り不安を取り除くよう配慮しながら信頼関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面談より、ご本人と話をし「こうしたい」「こうなりたい」などの希望や要望をお聞きし、共有しながら支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、お手伝いいただけることをできるだけ一緒に行い、感謝の言葉をかけ、アットホームな共同生活の場を築き、関係性を保つよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事を通してご家族と絆を深め、思い出作りの場面を設け、共にご本人を支えていく関係性を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の訪問時には、気兼ねなくお話しいただけるようなスペースを確保し、ゆっくりしていただけるような雰囲気作りをしている。 電話などのやりとりも支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、相性を把握し、フロアでの座席も考慮している。問題が発生した場合、すぐに席替えを行っている。出来る限り良好な関係性を築けるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後に退去された入居者様のご家族から、移転先の相談を受けて空き情報などを提供するなど連絡をとり支援を行った。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中で傾聴する時間をできるだけとるよう心がけ、ご本人の思い、希望、「こんなふうに過ごしたい」などの意向を汲み取れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの話し、アセスメントなどから生活歴などを把握し支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や排泄・水分チェック表などの帳票を活用し、一日の過ごし方、心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて、ご本人、ご家族の意向、医療機関などの意見も反映させ現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌、申し送りノートなどの帳票を利用し、連絡を密にとり、正確な情報を共有できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の重度化により発生する個々のニーズ、その他状況の変化により生まれるニーズに出来る限り柔軟に対応し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加、活動支援により一人ひとりが持っている力を出来る限り発揮し、楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療が月2回ある。かかりつけ医と連携をとりながら重症化を防ぎ、良好な関係作りにも努めている。協力医の総合病院の地域連携担当とも連携し、受診時間の短縮に便宜を図ってもらっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問があり、受診記録などにより連携を密に取り適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者と連絡を密にとり、ご本人、ご家族が不安なくできるだけ早期に退院できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の指針についてご説明し、ご本人やご家族の意向に沿って出来る限りの対応をおこなっている。また、研修を通してスタッフが終末期の対応への知識を深めることが出来るよう働きかけている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、研修を行い、連絡網や対応についても確認をおこなっている。AEDの使用法などの研修に職員が参加した。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署員、地域の方をまじえての防災避難訓練（夜間も含む）を実施し、災害時の対応に備えている。外部主催の防災研修にも職員を参加させている。町内会保有のスタンドパイプ式放水器をホームで預かり、近隣住民の方々が災害時に即時利用ができるように協力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保についての研修を行っている。個人情報保護のテストも毎年実施している。 言葉かけは、信頼関係が成り立った上での気軽な言葉かけをするスタッフもいるが、個々により違いはある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が、遠慮なく希望や思いを伝えられる関係、雰囲気作りを行い、いくつかの中から選んだり、決定したりする場面も作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	カンファレンスの時間を使い、「その人らしさ」について話し合い、個々のペースにあった支援をするよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人希望の理美容に行き、使い慣れた化粧品を使い、意向に合った身だしなみやおしゃれができるよう支援している。訪問理容により、カットがホーム内でうけられるよう支援している。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様とスーパーに食材を買いに行き、調理、盛り付け、片付けなどお手伝いしていただいている。		
----	----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量をすべて帳票に記録し把握することにより、脱水症状などを予防している。個々の状態により食事形態を変え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の利用あり。義歯の不具合などにも対応でき、定期検診により口腔内チェックもおこなうようにしている。口腔衛生管理体制加算を8月より取得して、口腔ケアの技術向上を目指している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パットへの失禁が多い場合には、誘導時間を替えてみるなどし、トイレでの排泄をできるだけ促すようおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、適度な運動、腹部のマッサージなどにより、できる限り自然排便を促している。便秘が続いたときは、医師の指示を仰ぎ、薬により調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は毎日設けているが、拒否があった場合は、ご本人の意向を伺い、時間や曜日を変えている。毎日入浴の希望がある利用者様にも対応できる体制を整えている。 入浴ができない場合は清拭、足浴で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や心身の状態に応じて、いつでも休息や睡眠がとれる環境づくりを行い、必要な方は褥瘡予防のため、午前、午後と居室で横になっていただく時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書は見やすいようにファイリングしており、副作用についてもいつでも閲覧し確認できるようになっている。疑問に思うことは薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野、嗜好などをアセスメントやご本人、ご家族からお聞きし、一人、一人に合った楽しみごと、役割を持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買物や散歩で外出する機会をできるだけ多く持ち、希望に添った支援を行っている。地域の知り合いの方と美容院へ通う入居者様がいらっしゃる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり好きなように使うことはできるが、日常的に所持はしていない。希望に応じて小額を所持してお菓子を買に行くなど支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があればいつでも電話をかけることができ、つなぐことができる体制を作り支援している。携帯電話を所持してご家族へ連絡をしている入居者様もいらっしゃる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所がわかりやすい様ドアの床とドアの色分けをしている。共有フロアー、居室はバリアフリーで、玄関は季節ごとに飾りを替え季節感を味わえるような配慮を行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し自由に座り、会話を楽しめる環境作りをしている。和室もあり、くつろげる空間作りに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は使い慣れた家具を持参いただき、できるだけ居心地よく馴染みの空間を作り心地よく生活出来る様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	持っている力を発揮できる場面を作り、安全でできるだけ自立した生活が送れる様支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ニキヤアセ29-洋光台

作成日

2020/11/17

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	60	コロナ禍の影響により 外出が難。	入居者様には各表換にて いたゞける等工夫する。	使ヤテラスでのしりゆ 近所を1周程度で 外の空気を吸、てらう	1ヵ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。